

#### 2017年 東洋経済新報社CSR調査·評価説明会

# 東洋経済CSR調査・ CSR評価(ランキング)のご説明

2017年4月18日(火)~25日(火) 株式会社東洋経済新報社 『CSR企業総覧』編集長、財務・企業評価チーム 岸本吉浩

#### CSI 本日のご説明内容 TOYOKEIZAI

- 1. 東洋経済CSR調査の概要
- 2. CSR調査データから見えてくる変化
- 3. 第11回東洋経済CSR評価・CSR企業ランキング
- 4. 公開情報からの調査・評価
- 5. 今年の東洋経済CSR調査・評価
- 6. 新媒体・新サービスのお知らせ



- ●東洋経済CSR調査・評価の概要を知っていただく
- ●直接、質問できる場を提供
- ●説明資料等の存在を知っていただく
- できるだけ多くの方とお会いする (双方向のコミュニケーション)



# 1. 東洋経済CSR調査の概要



## CSR 東洋経済CSR調査は12回実施

#### ■東洋経済CSR調査の特徴





#### 会社基本データ

CSR&財務評価・格付け

CSR全般

ガバナンス・法令 順守・内部統制

雇用・人材活用

消費者・取引先対応

社会貢献

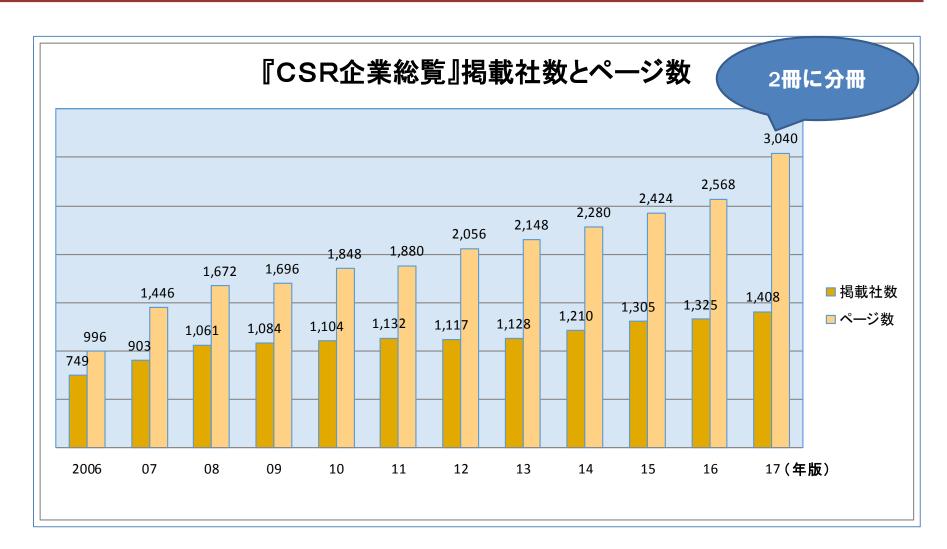
企業と政治の関わり

環境

ランキング作成



## CSR 日本最大のCSR情報を保有



# CSR 注目されるCSRデータ TOYOKEIZAI

- ●財務情報中心の企業評価の限界
- ●非財務情報への注目度の高まり
- ●非財務情報の中心としてのCSRデータ
- ●海外・国内で幅広く情報開示の対象に



企業を詳しく知るための情報して注目されている



## CSR これまでにない情報を知りたい!

#### 例えば・・・

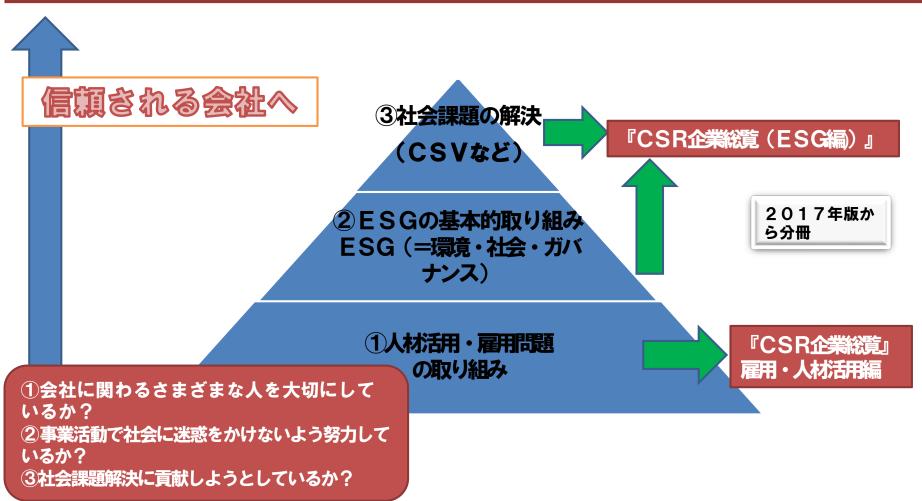
- ・女性管理職人数
- 有給休暇取得率
- ・離職者数
- ・メンタルヘルス休職者数
- 社会貢献支出額
- 内部通報件数
- 生物多様性関連の支出額
- ・CO<sub>2</sub>排出量

#### このような意見も

- CSRの枠組みは意識していない
- ・上場企業の多くのデータが欲しい
- 情報開示を促すためのツール としてCSR(ESG)が使 えそう



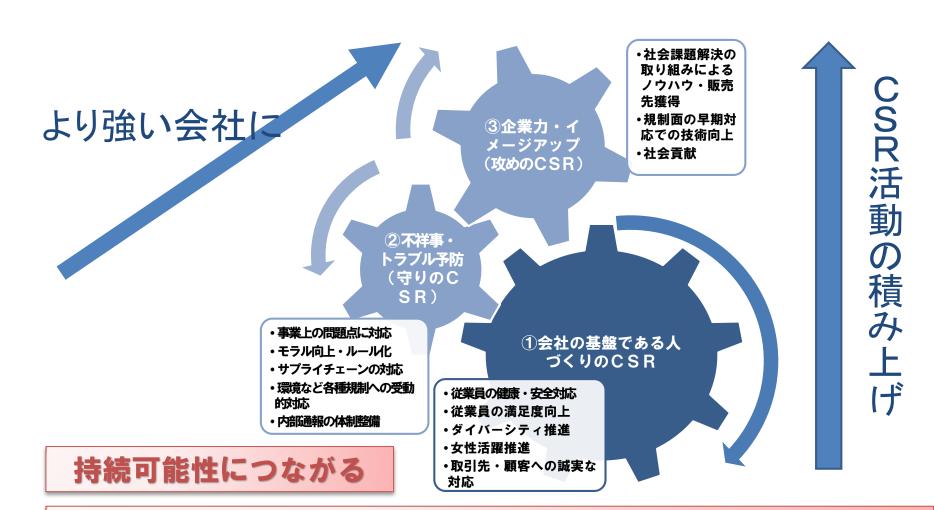
#### 東洋経済が考える CSR活動に重要な3つの視点



「ESG-H」という枠組みが基本



#### CSR CSR活動でより強い会社になっていく



この全体の動きがわかるような調査・評価を目指す



## CSI 東洋経済CSRデータの提供先

#### CSR調査データ

#### CSR評価データ

ランキング



#### CSR企業総管

- 紙・電子書籍で発行
- 図書館などの購入
- 日経テレコン、G -Search& どでも閲覧可能

#### デジタルコンテン ツ・ライブラリー (DCL)

- 東洋経済のほとんど の媒体がWebで見 られるサービス
- 学生は自宅やスマホ からも閲覧可能
- 全国80大学で導入
- 首都圏の主要私立大 学を中心に拡大中
- 就職や研究に利用

#### データベース

- 『CSR企業総 覧』掲載情報を データベース化
- テキストデータと して提供
- 大学や調査機関、機 関投資家等が利用
- ランキングデータも

#### 東洋経済ESGオンライン

- 2016年1月から サービス開始
- Webサービス
- 主に機関投資家な どが対象
- CSR以外に役員、 CG報告書などの データも
- 検索も可能

# CSR CSRデータ・CSR評価データの EXTOYOKEIZAI 主な利用先

利用先	主な利用内容
大学の研究者などのアカデミック分野 (全顧客の過半数。海外の大学も)	<ul> <li>データベースから必要な項目だけ使用</li> <li>CSRデータを基に独自に評価を作成</li> <li>評価データをCSRの達成度として利用</li> <li>これまでは雇用・人材活用編の利用が中心</li> <li>社会貢献等の情報へのニーズが拡大中</li> </ul>
運用会社・シンクタンクなど	<ul><li>研究に利用(女性の雇用等)</li><li>基礎データとして利用することが多い</li><li>自らの調査データと組み合わせるなど</li><li>設備・人材投資ETFの基礎情報として利用</li></ul>
モーニングスター社会的責任投資株価i数 (MS-SRIインデックス)	<ul><li>2011年6月より調査・評価業務を担当</li><li>格付けデータを提供し、そのデータを基に150銘柄を選定</li></ul>
その他	<ul><li> 就活向けのサービス 就職活動向けの情報として利用。</li><li> 他</li></ul>

# CSIR 各サービス担当者から聞いた TOYOKEIZAI 利用者の声

サービス	主な内容
デジタルコンテン ツ・ライブラリー (DCL)	<ul> <li>担当者が全国の大学で年間約40回の使い方等のセミナーを実施</li> <li>各大学のキャリア支援理当者は『CSR企業総覧』が企業形況に有用という認識を持つ</li> <li>複数内定を得た学生が最後に『CSR企業総覧』で判断するケースが増加</li> <li>上位校の女子学生は『就職四季報』女子版より『CSR企業総覧』を活用</li> <li>年齢構成、離職者状況、新卒定着状況、育児休業復職率、両立支援制度、LGBT、メンタルヘルス休職者数などに注目</li> <li>数値情報以外に多くの情報が入っている文字情報にも注目</li> </ul>
データベース	<ul> <li>日本株投資ではオリジナルのファクターを入れたいという考えがある「被災地復興支援」などの独自情報に注目(金融系運用会社A)</li> <li>他のベンダーでは見ることができない非財務情報が豊富(金融系運用会社A)</li> <li>収録社数が多いので基礎情報として利用(金融系運用会社B)</li> <li>女性活用などの人材関連情報が豊富(金融系運用会社C)</li> <li>CSRの達成度として評価データを利用(大学教授)</li> </ul>
東洋経済ESGオンライン	<ul> <li>・ 役員専任議案への議決権行使業務に利用(金融機関)</li> <li>・ ESG投資のためのCSR情報の収集(金融機関)</li> <li>・ CSR戦略立案のための他社取り組み状況の調査(一般事業会社)</li> <li>・ IR部署へのコンサル資料の作成(金融機関)</li> </ul>



# 2. CSR調査データから見えてくる変化



- ●別紙の集計表を参照
- ●集計データから見えてくる特徴



# CSR 関連部署のデータから変化が見える

- ●CSR担当部署は兼任化の動き
- ●CSR担当役員は増加
- ●環境対策担当部署が増加へ
- 社会貢献担当部署は東日本大震災後に増加 社会課題解決の部署という位置づけも。
- ●ダイバーシティ推進等の部署は年々増加



## CSR 報告はネット・投資家向けが鮮明に

- ●CSR活動(情報)の報告は紙からWebへ
- ●第三者の関与は減少傾向
- ●英文の報告書発行は増加傾向
- ●統合報告書の発行は作成予定もあわせて増加
- ●意見交換会等の開催は増加
- ●意見交換会の活動内容もWeb等で公開
- ●投資家を意識したESG情報の開示は増加
- 投資家等との対話は「行っている」が過半数



### CSI 社会貢献関連は拡大傾向

- ●ボランティア休職、青年海外協力隊制度に続き、ボランティア休暇もピークか?
- ●BOPビジネス、コミュニティ投資、プロボ ノ支援等はCSVなどで増加に加速が
- NPO・NGOとの連携は特定企業にとどまり停滞気味



## CSR 注目度が高い人材関連情報

- 女性関連比率は女性活用・活躍の流れで注目 度アップ。比率も年々上昇
- ●新卒3年後定着率・有給休暇取得率は一般か らの注目度は非常に高いが大きな変化はなし
- ●日本国内でCSR関連で注目度の高い情報は「 人」に関する項目が多い



# 3. 第11回 東洋経済CSR評価・CSR企業ランキング



#### **CSR** CSR評価・ランキング作成の目的

#### 「信頼される会社」 をCSRデータを 使って見つける

- ・株式投資・就職先として勧められる会社
- ・「信頼される会社」像を考える

# 定量評価による企業評価の仕組み作り

- ・数値情報など定量評価での企業評価
- ・財務評価とあわせた総合評価

#### 各社のCSR活動 を見る際の参考情 報に

- 各企業の取り組みの参考指標のひとつに
- CSR情報を見る際の参考情報(「もの さし」のひとつ)に



## CSIR CSR企業ランキングでの優良企業

#### ①から④までと財務の力が両立した会社



例:人材活用・ ダイバーシティ マネジメント

> ①基本理念、障害者 雇用率の目標、など

②多様な人材登用部署の設置、LGBTへの対応、など

③女性管理職・部 長職比率、障害者 雇用率、外国人管 理職の有無、など

#### F:財務の力



## CSR CSR企業ランキングの枠組み

CSR (300点) (1+2+3+4)



- 環境
- 企業統治+ 社会性

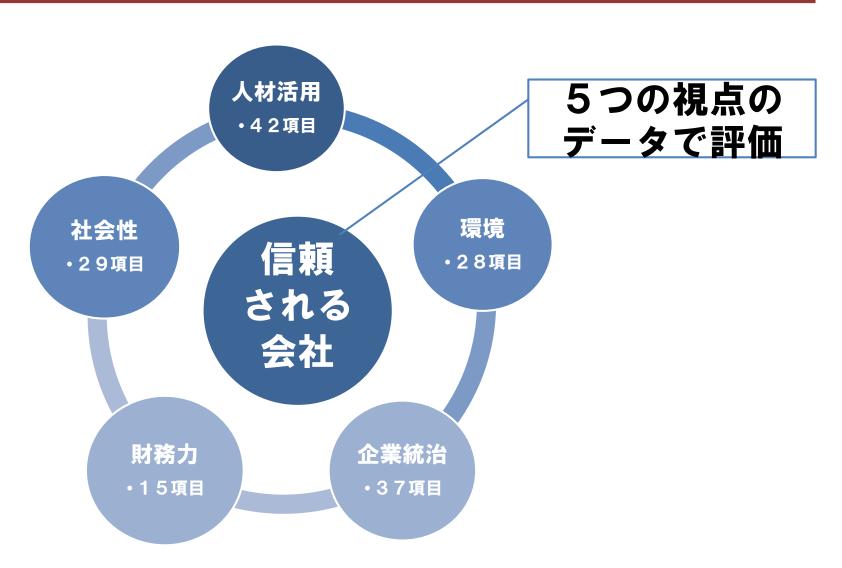


財務 (300点) F

- 収益性
- 安全性
- 規模



#### CSR企業ランキング5つの視点 (2017年版)





# **CSR 2017年版CSR企業ランキング**

順位	前年	社名	総合 (600)	人材活用 (100)	環境 (100)	企業統治 +社会性 (100)	財務 (300)
1	1	富士フイルムHD	569.7	94.2	95.9	99.4	280.2
2	3	ブリヂストン	567.9	91.9	98.6	97.6	279.8
3	7	KDDI	565.0	95.3	94.6	97.0	278.1
4	3	コマツ	563.8	93.0	95.9	95.9	279.0
"	5	NTTド⊐モ	563.8	89.5	93.2	98.2	282.9
//	9	キヤノン	563.8	91.9	100.0	89.3	282.6
7	2	富士ゼロックス	561.4	88.4	94.6	98.2	280.2
8	6	デンソー	561.1	86.0	100.0	94.7	280.4
9	8	リコー	560.6	90.7	100.0	100.0	269.9
//	18	花王	560.6	100.0	93.2	88.2	279.2



- ●全業種を同じ土俵で見ていく
- ●幅広い分野を対応
- ●基本的な取り組みを重視
- 数値で把握できる項目を積極的に取り入れる



## CSI 上位はどのような会社か?

#### 多くの人が「優良」と認める会社

- 業績が安定している
- ●CSRの主要テーマを網羅している・意識している
- ●指標等の数値上昇に努力している
- 幅広くCSR情報を開示している

#### 幅広く活動・開示できない会社の評価は低い

- ●幅広く活動・開示できない非製造業・中堅は得点が低い傾向
- ●環境分野の活動・開示レベルがランキングに影響 (開示可能な情報も多い)
- 業種内順位や得点の成長率など別の見方もある 27



## CSI 評価項目の基礎得点のつけ方

- ●各評価項目の最大得点は2~3点がほとんど(約90%) 5点は5項目(全136項目)。
- ●伸び率は使っていない。現在の実力を評価する
- ●数値項目は「率」と記載していれば、「率」で評価。「人数」などと記載していれば、その「実数」で評価
- ●重要な項目は率と実数(人数等)の両面で評価 育児休業取得者+育児休業取得率など。
- ●数値項目は全社の平均値などを参考に得点ルールの見直しを 定期的に実施 障害者雇用率、女性部長比率など。
- ●文章項目は基本的に該当する内容が書いてあれば得点

#### ⇒別紙「評価項目一覧」にポイントを記載



# C5R 評価の具体例1 (人材活用)

評価項目	評価内容
女性管理職比率	<ul> <li>8%以上:3点(上位24%)</li> <li>上位の目安20%は「管理職比率10%以上」が提邦に</li> <li>5%以上:2点(ほぼ上位35%)</li> <li>2%以上:1点(ほぼ上位60%)</li> </ul>
新卒入社者の定着度 (3年後定着率)	<ul><li>95%以上:3点</li><li>85%以上:2点</li><li>他</li></ul>
勤務形態の柔軟化に関する諸 制度	<ul><li>一つの制度:1点</li><li>ただし、合計点の上限あり</li></ul>



# ○51 評価の具体例2 (CSR全般・環境)

評価項目	評価内容
環境法令違反の有無	<ul><li>2年連続ゼロ:3点</li><li>回答あり:1点</li></ul>
内部通報・告発件数の開示	<ul><li>2年連続数値回答あり:3点</li><li>他</li></ul>
海外での価格カルテルによる 摘発	<ul><li> 直近2年間ゼロ:3点</li><li> いずれかゼロ:2点</li><li> 回答あり:1点</li></ul>
地域社会参加活動実績	・ 何らかの活動実施(回答あり):3点
東日本大震災復興支援	<ul><li>行っている:3点</li><li>昔行っていた:1点</li><li>今回から東日本大震災以外も含めている。</li></ul>



# CSIR 2017年CSR評価 基礎得点満点、最高得点・企業

各評		満点(項目数)	最高得点 達成率(前年)	社名
価項目の	人材活用	97点(42項目)	86点 88.7%(86.8%)	花王、SCSK、S OMPO HD
価項目の得点を合計	環境 77点(28項目)		74点 96.1%(97.3%)	キヤノン、デンソ ー、リコー、ホン ダ、日産自動車
しし	企業統治	94点(37項目)	94点 100%(100%)	帝人、ローム、モスフードサービス
基礎得点を算出	社会性	79点(29項目)	78点 98.7%(98.7%)	富士フイルムHD
出	企業統治+社会性	173点(66項目)	169点 97.7%(97.6%)	リコー



## CSR ランキングはトップの基礎得点が基準

- ●格付けは基礎得点の段階で作成
- ●ランキングはトップの基礎得点を基準(100点になる)
- ●基礎得点の最高点は毎年変化
- ▶トップの基礎得点が上昇すると昨年と同じでは評価 は下がる

	<u> </u>
_	

★2016年	基礎得点	得点
A社(1位)	80	<b>100</b>
B社(■位)	50	<b>62.5</b>

倍率(1位のA社が基準)

100÷80=1.25倍

B社得点=50×1.25(62.5点)

★2017年	基礎得点	得点
A社(1位)	90	<b>100</b>
B社(■位)	50	<b>55.6</b>

倍率(1位のA社が基準)

100÷90=1.1111倍

B社得点=50×1.1111(55.6点)

環境

企業統治+社会性

# CSR 最近6年のランキング平均点

TOYOKEIZAI						
上位200社	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年
総合ポイント	481.5	484.0	500.9	516.9	513.7	523.1
人材活用	73.1	76.0	81.0	83.6	83.3	84.1
環境	83.6	83.2	87.1	86.4	86.4	88.9
企業統治+社会性	83.3	85.4	88.9	88.9	88.9	90.0
財務	241.5	239.4	243.9	258.0	255.2	260.1
上位700社	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年
総合ポイント	404.0	403.6	421.1	439.9	440.3	442.2
人材活用	52.5	55.4	59.6	63.4	64.3	66.8
環境	60.4	59.7	63.8	64.2	65.4	68.6
企業統治+社会性	62.2	63.3	67.1	69.1	70.9	73.1
財務	228.9	225.2	230.5	243.2	239.8	233.7
全社	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年
対象社数	1,010 ※一定レベル以下 も対象	1,116 ※一定レベル以下 も対象	1,059	1,086	1,110	1,136
人材活用	44.1	47.4	51.8	53.6	53.4	55.2

47.9

54.2

52.6

58.2

51.9

58.9

51.8

59.2

53.9

60.5

48.7

53.5

# CSR 最新ランキングの特徴 TOYOKEIZAI

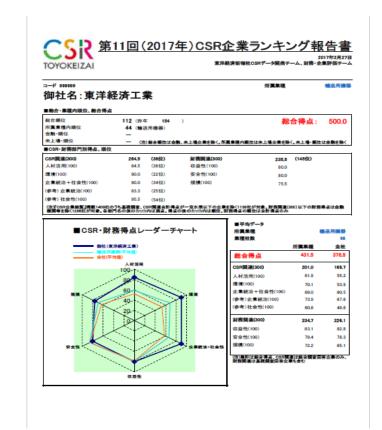
- ●全体的に得点上昇
- ●人材活用は数値項目のルール変更を頻繁に行っているが上昇
- ●財務得点は上位が上昇傾向



### CSIR CSR企業ランキング報告書

- ●2月27日に電子メールご登録者に送付
- CSR企業ランキングのすべての得点をご紹介
- ●2013年から作成

ご希望の場合はメールでご連絡ください





# CSR CSR企業ランキング報告書の見方

参考:配布資料の「報告書」見本

- ●総合順位は112位
- ●輸送用機器に属してランキングは56社中44位
- ●総合ランキングは財務得点有り(1, 286社)と CSR得点が一定以上(1.136社)が対象
- ●所属業種、全社のCSR関連、財務関連の各部門の 合計得点は社数が異なる。また内訳は誤差の関係で 一致しないこともある



### CSR ランキングが上がらない会社

#### 傾向

- 調査票ごとに開示の バラつきがある(担 当者の差?)
- 回答できないと決め つけている
- 回答の手引きなどを あまり読んでいない

# よくある 未開示項目

- ダイバーシティ推進 の基本理念
- 障害者雇用率の目標値
- 育児休業取得率
- 各種表彰歷
- BCM・BCP等



### CSR CSR企業ランキング上昇企業の例

### レベルアップ

#### ①目標設定・方針設定

- ・基本方針の見直し
- ・いくつかKPI(重要業 績評価指標)を設定
- その中のひとつがCSR 企業ランキング

#### ②情報収集

- ・自社の情報を収集
- ・他社の情報を収集 『CSR企業総覧』を使用。

#### ④ランキング上昇

・200位くらいには上が ることが多い

#### ③開示・取り組み

- ・取り組みを広げる
- その内容を開示する
- ・さらに問題点がわかる
- 強みもわかってくる

#### ■きっかけ

- ・新しく担当になった
- ・幹部から指摘

CSR企業ランキングの上昇企業で多いパターン



### CSR企業ランキング 『週刊東洋経済』掲載号

第1回	2007年5月19日号
第2回	2008年5月17日号
第3回	2009年5月16日号
第4回	2010年5月15日号
第5回	2011年2月26日号
第6回	2012年3月17日号
第7回	2013年3月30日号
第8回	2014年4月 5日号
第9回	2015年3月14日号
第10回	2016年3月 5日号
第11回	2017年3月 4日号





# 4. 公開情報からの調査・評価



### CSI 各社の開示情報は増えつつある

#### 1義務化

- ・コーポレー ト・ガバナン ス報告書
- 女性活躍推進法

#### ②社会の要請

- · CSR報告書
- •環境報告書
- •統合報告書
- ·環境情報開示 基盤整備事業
- 各種表彰制度

#### ③アンケート

- 『役員四季報』
- ・「大株主調査」
- 『就職四季報』
- ・「CSR調査」

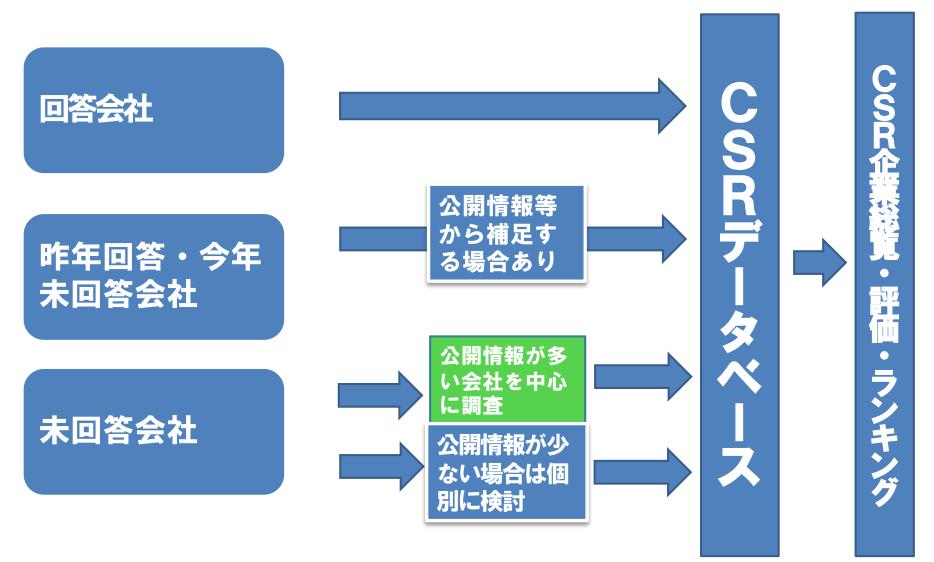
まだ十分ではないが少しずつ増えている

こちらも必要

現在はアンケート分を含めて企業を評価できるレベルと考える



## CSR 回答企業以外も同じデータベースに





# CSR 公開情報からの調査について

#### ■問題意識

- 開示情報からESGデータ収集とい う流れが広まりつつある(と言われ る)
- 官公庁などは企業の開示情報を増や そうとしている
- 東洋経済も公開情報から集めていく 体制整備が必要という認識は持つ
- 通常の調査票・DBの枠組みに入れたい
- 回答・未回答企業あわせて評価を行える ようにする
- 当然ランキングも作成したい
- ただし、非常に手間がかかるので201 6年の対象企業は5社

#### ■2016年調査の結果

- 一般的にCSRに積極的とされている 未回答企業5社を調査。うち3社はD Bにデータがまったくない状態。他は 数年前に回答ありなど
- CSR報告書、女性の活躍推進企業デ ータベースなどからデータを取得 ⇒PDF調査票に入れていった。
- 取得できる項目は多くはなかった
- 特に数値項目が少なかった
- 評価はあまり高くなかった
- 今年は10社程度を目標にする



## CSR 公開情報の課題も多い



- 開示情報は多くない
- 特に数値情報が十分ではない
- 人に関するデータがあまりない

公開情報は十分 ではないため依 然多くの機関が 似たような調査 票を送っている 基準がバラバラ

評価手法・見方が確立されていない

多くの機関 が一緒に考 えていく時 期になっ た?

- 調査内容の標準化
- 共通項目の共同利用
- アカデミックを中心とした情報の見方の検討

国中心に開示基準を決めていくのがいいのかもしれない



### CSR ESG投資の広がりが変化となる?

#### ■判断基準が変わっていく

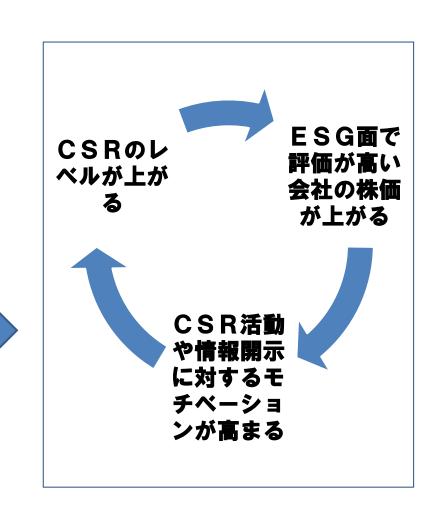
#### ■よい循環になっていく可能性

#### ●現状

- CSR評価の高い会社が株価が上がるとは必ずしも言えない (評価が上がっている会社は注目している)
- 理由として考えられるのが、
  - ①すでに株価が高い
  - ②投資家はESG情報をあまり見ていない
  - 3他

#### ●判断基準が変わると

- 「ROEが高い」とよいと同じよう に「女性管理職比率が高い会社」が よいという考え方に
- 開示情報が多い会社や積極的にCS Rに取り組む会社が評価される
- ESG(CSR)の指標が広まって いくことで、さらに進んでいく







# 5. 今年の東洋経済CSR調査・評価

### CSI 今年の変更点など TOYOKEIZAI

- ●大きな変更点はない予定
- ●金融機関CSR企業ランキングに財務評価を 導入
  - ⇒一般事業会社と同じ財務評価作成という目標はあるが、まずはこちらを進める。本格的な作業はこれから。
- ESG企業ランキングの株式投資での活用を 目指す
  - 環境、社会、企業統治(ガバナンス)、人材 活用+ROEのランキング。

# CSI 今年・今後の調査項目候補

- ●残業時間削減の取り組み
- OECD国際課税ルールへの対応
- ●海外でのサプライチェーンなどの人権関係の対応
- ●取締役会評価の内容・結果
- ●金融機関の傘下運用会社のESG対応状況など
- ●SDGs (持続可能な開発目標) への取り組み



名称	内容
①CSR調査・評価説明会	2012年開始。今年で6年目。調査についての基本的な 内容の説明。作成した資料等の紹介。今年は東京2回、大 阪1回開催。
②個別質問会	2016年5月開始。基本的に毎月1回弊社会議室で開催。 基本は1日だか申し込みが多い場合は複数日程を設定した こともある。2017年3月までで計13日、合計40社 (比較的大手企業が多い)。
	事前に質問をいただき、個別にお会いしご説明。 ライバル企業との差や自社の得点についての質問が多い。



# ○51 2017年調査のスケジュール

年月	内容
2017年5月	調査項目を決定。調査票の作成開始 『CSR企業白書』作業がピーク
6月	『CSR企業白書』2017年版発行予定(下旬) 調査票発送(6月26日頃が目標)
7月	PDF調査票発送(昨年回答、希望企業のみ)
8月	締め切り(8月10日予定)。編集開始
11月	『CSR企業総覧』発売 集計編作成
1 2月	電子書籍の作成 各種ランキング発表開始
2018年1月	電子書籍発行 CSR企業ランキングの準備
2月	(予定) CSR企業ランキングの発表(『週刊東洋経済』) (予定) CSR企業ランキング報告書送付
3月	(予定)東洋経済オンラインでCSR企業ランキング発表
4月	説明会(東京・大阪) 『CSR企業白書』2018年版発行(?)



# ○51 東洋経済の外部との関わり①

活動名	主な内容
東洋経済CSRセミナー	<ul> <li>東洋経済CSRプロジェクトチーム主催で2014年4月から過去10回開催</li> <li>社会貢献、LGBT、ESG、情報開示、サプライチェーン、就活、NPO、環境などをテーマに実施</li> <li>3月30日開催の第10回は「CSRデータの分析から見えてくる企業の本当の姿」がテーマ</li> <li>開催後(3カ月以内が目標)に概要を公開</li> </ul>
日本橋CSR研究会	<ul> <li>東洋経済CSRプロジェクトチームが事務局</li> <li>CSRについての議論などをメインに月1回開催</li> <li>内容については幹事会主導に変更</li> <li>研究分析を進めていく方向に</li> <li>企業・研究機関・NPOなど幅広い層が参加</li> </ul>



# **CSR** 東洋経済の外部との関わり②

協力・参加	主な内容
環境コミュニケーション大賞	第18回(2014年)から3回後援
CSRアジア東京フォーラム	2013年から5回後援
環境省・環境情報開示基盤整備事業	1回目(2013年)から情報の利用者側と して参加
その他個別でご協力・情報交換	<ul><li>可能な範囲での公式・非公式での意見 交換会の実施</li><li>依頼があればセミナー講師なども</li></ul>

+本業での取材

+著者と編集担当として



外部との関わりで独りよがりにならない調査に



# 6. 新媒体・新サービスのお知らせ

『CSR企業白書』 2017年版

『CSR企業総覧』オンラインサービス



# 

	内容
解説記事 (約60ページ)	各分野の専門家によるCSR・ESG情報の解説ページ。 (ESG、統合報告書、EUのCSRの変化、ダイバーシティ、 テレワークなど)
総合ランキング	CSR企業ランキング、ESG企業ランキング、女性が働きやすい会社ランキング、他 ⇒見本参照
個別ランキング	勤続年数、新卒3年後定着率、外国人管理職数、政治献金・ロビー活動等支出額、温室効果ガス排出量(対利益も)、生物多様性保全など約60
業種別集計編	数値部門:通報・告発、勤続年数、障害者雇用率など約110 選択肢部門:活動のマテリアリティ設定、CSR担当部署、CS R担当役員など約120

- 発売日:2017年6月下旬予定
- ページ数:現在600ページ程度の見込み(ランキング・集計編は500ページ以上)



### 『CSR企業総覧』オンラインサービス (仮称)

- ■WEBでの検索閲覧サービス (DCL: デジタルコンテンツ・ライブラリ特別版)
- 1. 『CSR企業総覧』最新号 (雇用・人材活用編) (ESG編) (統合版) 各社ごとのページが閲覧可能
- 2. 過去の週刊東洋経済「CSR企業ランキング」記事







検索·閲覧可能

#### ■現在決定事項

#### ●仕様

- 同時アクセス1
- 検索システム+印刷可

#### ●料金

- 年額120,000円(税抜き)
- 初回キャンペーン(2017年12 月まで申し込み) 年額96,000円(税抜き)
- ※詳細は2017年6月頃決定



今年もどうぞよろしくお願いいたします。